

国際交流委員会からのお知らせ

国際交流委員会委員長 森谷 卓也

日中国際交流会議の報告

日本大学医学部 病態病理学系腫瘍病理学分野

唐 小燕

2018年6月15日-17日に、中国湖南省長沙(チャンサー)市にて、日本臨床細胞学会と中国病理学会の細胞学分会(以下中国細胞学会とする)間で国際交流会議が行われたのでご報告いたします。

日本臨床細胞学会と中国細胞学会間の正式な交流会は、長い間執り行なわれておりませんが、今回、長村義之先生、森谷卓也先生、中国病理学会副会長である劉東戈先生、中国細胞学会会長の金木蘭先生のご尽力により、二国間の交流会議を開催するに至りました。参加者は日本から西村理恵子先生、(名古屋医療センター病理)、伊藤智雄先生(神戸大学病理)、中西陽子先生(日本大学病理)、飛田 陽先生(鹿児島大学病理)、と筆者(日本大学病理)の5人です。

5人の参加者は日本国内4つの空港から出発し、伊藤先生、飛田先生はそれぞれ個人で長沙空港まで、西村先生、中西先生、唐3人は中国の上海にて合流したのち共に長沙まで移動し、長沙空港から会場までは中国学会側に送迎いただきました。到着した日に、発表の通訳をお願いした陳蘭先生と平波先生と夜遅くまで打ち合わせをさせていただき、全員で奮闘しました。

学会会場の湖南賓館は1959年に建てられた古い建造物ですが、近年リノベーションされたばかりであり、昔から国家の指導者や外国からの重要な来賓の接待に用いられてきた由緒ある施設です。会期は6月14-16日の三日間でしたが、われわれの発表は全て2日目の15日に行われました。午前中は西村先生がキーノートスピーカーとして、「セルブロックを用いた乳癌転移巢の

HER2 およびホルモン受容体発現の評価 (Evaluation of HER2 and hormone receptor status in metastatic breast cancer using cell blocks)」と題した講演を行いました。講演は英語で行われ、北京医院の陳蘭先生による通訳で中国語に翻訳されました。講演は大変好評であり、質問も多数寄せられました。その後に講演の関連資料も配られました。同じ会場ではアメリカおよびフランスからの先生達の講演も行われておりました。

日中交流講演会は同日の午後に別会場で行われ、日中双方で各 4 人の演者が講演しました。全員の発表スライドは英語で作成され、講演用語は、日本側 2 名英語、1 名日本語、1 名中国語で、中国側は全員中国語でした。座長は中国病理学会副会長の劉東戈先生および中国細胞学会会長の金木蘭先生が務められ、それぞれの発表ごとに多数の質問と熱心な討議が行われました。また、会議後も細胞転写や遺伝子検査に関する方法の詳細な資料を求める若い先生が多数おり、会議の参加者は皆勉強熱心でした。その晩は、会議に参加する先生達の懇親会を長沙市岳麓山山頂のレストランで盛大に行われ、米、仏、中、日 4 か国の細胞学者および技術者同士で交流を深めました。

今後の課題として講演時に使う言語(英語・日本語)や発表のテーマおよび内容など工夫の余地は残っているものの、一先ず第一回目の交流会は成功に終わりました。